

審査の結果の要旨

氏名 上野（奥村）恵子

本論文は、ソーシャルマーケティングの概念に基づき、生活保護利用者の集団を属性情報により分類した小集団（セグメント）の属性に応じて健康・生活支援策を提供する支援システムの開発に向けた基礎研究として、福祉事務所で収集した高齢の生活保護利用者のデータとケースワーカーへのインタビューを併用した混合研究法を行い、利用者集団を属性情報に基づき妥当なセグメントに分類し得るかを検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 福祉事務所の生活保護業務で使用している生活保護基本管理データベース、介護扶助データベースから収集した変数を用いて確率的潜在意味解析（**probabilistic latent semantic analysis: PLSA**）によるソフトクラスタリング分析を実施した。その結果、生活保護を利用する高齢者を男女それぞれ特徴が異なる5つのクラスタに類型化できた。

2. ケースワーカーへのインタビュー調査の結果、実在の利用者を想起できるクラスタと想起し難いクラスタが含まれていた。利用者を想起できるか否かについて参加者の意見が分かれたクラスタでは、利用者を想起できなかった理由として、①普段利用者の特徴を把握する際にクラスタリングで使った情報に着目していない、②同一クラスタ内の変数の組み合わせが妥当ではない、③クラスタに含まれるある特定の特徴を持つ利用者を想起できないことが明らかとなった。同様に、参加者全員が利用者を想起できないと述べたクラスタでも、上記②と③が理由として示された。

以上、本論文は、セグメンテーションを活用した支援策の提供が一定程度行える可能性を示し、より精度の高いかつ効果的な支援策を考案し得るセグメンテーションのあり方を検討したものであり、生活保護利用者への健康・生活支援策の提供を検討する上で重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。